

# 宮城県歯と口腔の健康づくり 基本計画の推進状況について

# <目次>

- ① 妊産婦期・乳幼児期
- ② 学童期・思春期
- ③ 青年期・壮年期
- ④ 高齢期
- ⑤ 障がい児・者

# ① 妊産婦期・乳幼児期

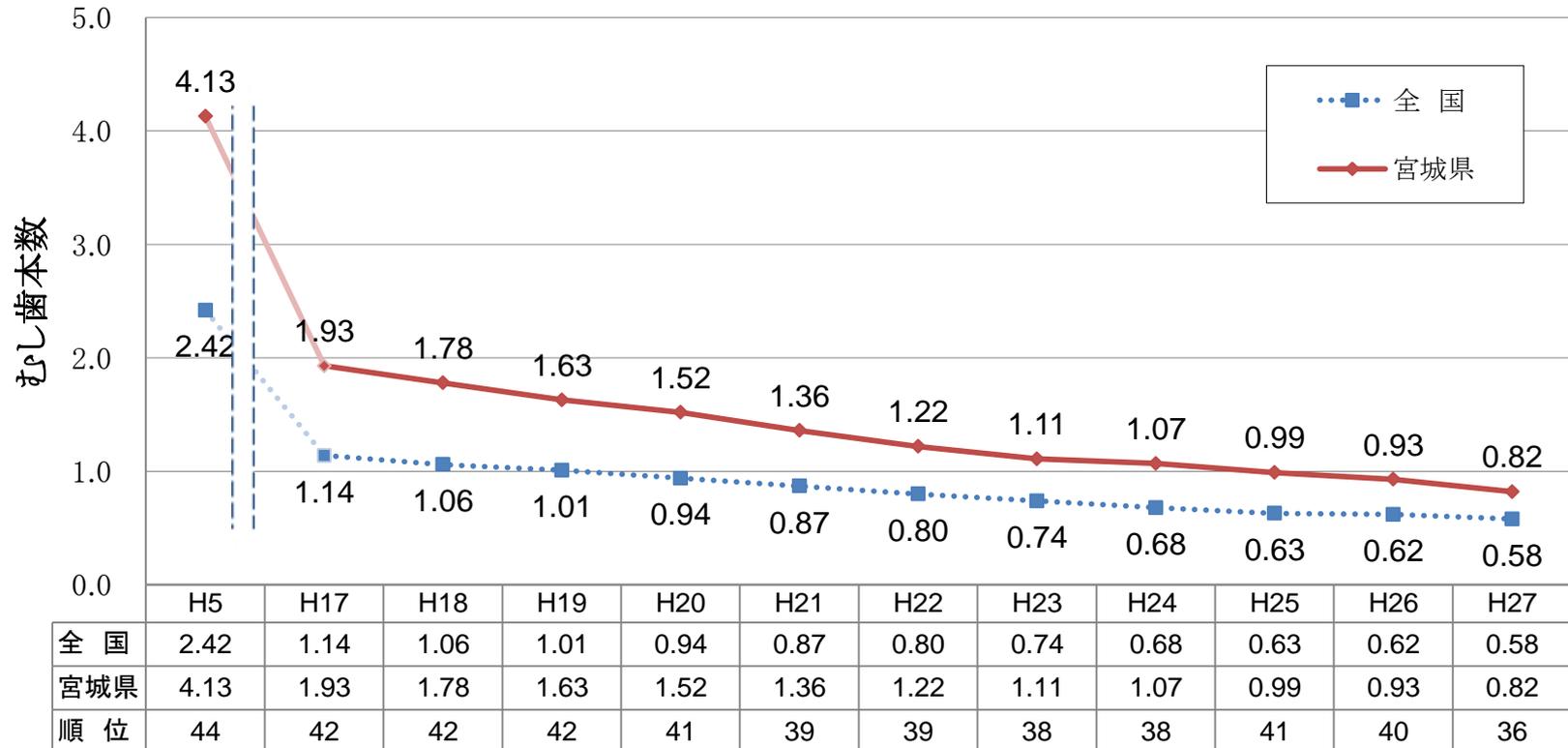
## 達成指標

達成指標	ベースライン値	現状値	目標値
3歳児の一人平均むし歯本数	1.11本 (H23)	0.82本 (H27)	1本以下 (H28)
3歳児におけるむし歯のない人の割合	72.6% (H23)	77.1% (H27)	80%以上 (H28)
3歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことがある人の割合	72.5% (H24)	79.5% (H27)	80%以上
3歳児の間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する習慣を持つ人の割合	31.0% (H24)	29.2% (H27)	15%以下

# 歯科疾患の現状

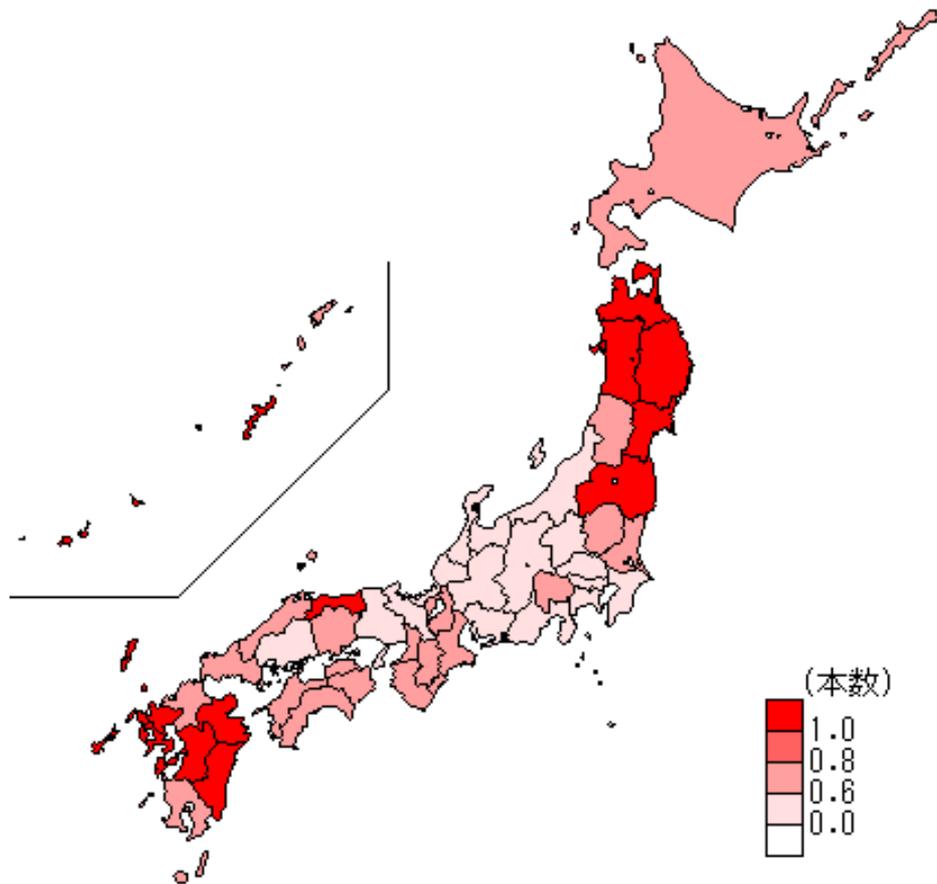
## ◆3歳児の一人平均むし歯本数の状況(宮城県)

(本)



※ ~H25「歯科健康診査(3歳児健康診査)」結果 【厚生労働省】  
 H26~「地域・健康増進事業報告」結果 【厚生労働省】

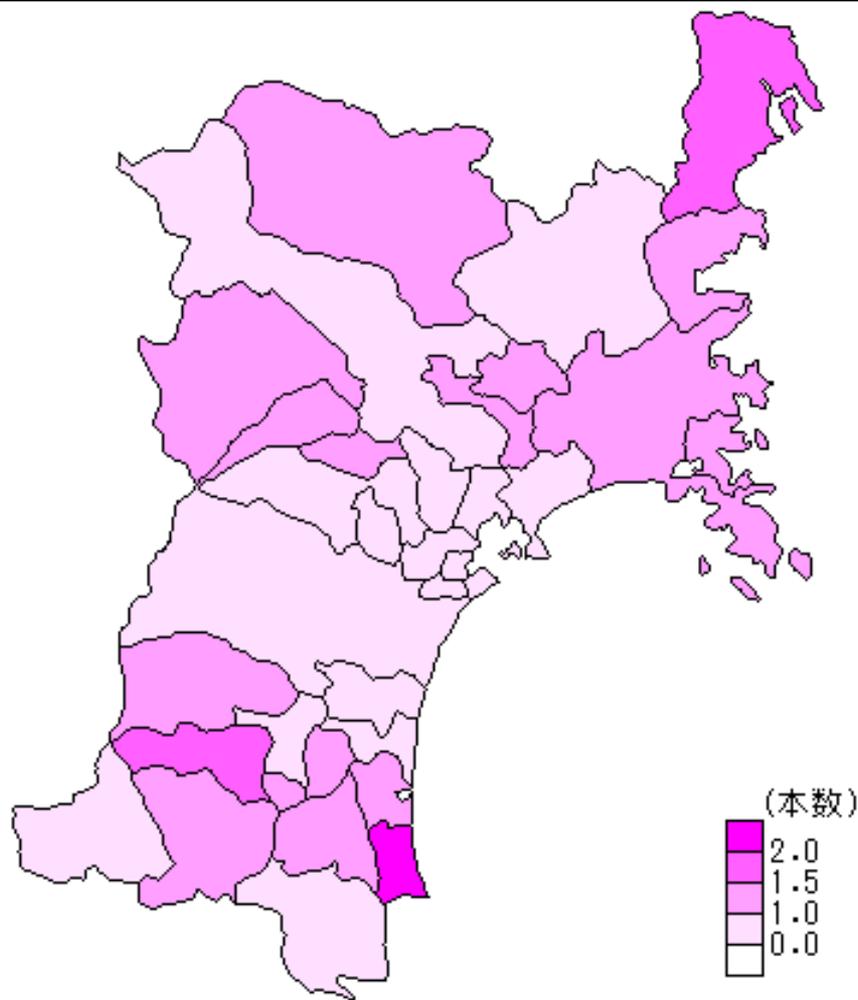
◆3歳児の一人平均むし歯本数の状況  
(都道府県別／平成27年度)



※ 平成27年度「地域・健康増進事業報告」結果  
【厚生労働省】

順位	都道府県	本数	平均
1	東京都	0.36	全 国 0.58
2	静岡県	0.37	
3	愛知県	0.38	
4	岐阜県	0.39	
5	神奈川県	0.40	
6	新潟県	0.41	
7	福井県	0.48	
8	長野県	0.49	
9	兵庫県	0.50	
10	石川県	0.50	
⋮	⋮	⋮	
30	高知県	0.73	
31	山形県	0.76	
32	香川県	0.77	
33	徳島県	0.78	
34	鹿児島県	0.78	
35	和歌山県	0.79	
36	宮城県	0.82	
37	岩手県	0.84	
38	秋田県	0.86	
39	熊本県	0.91	
40	大分県	0.92	
41	佐賀県	0.93	
42	宮崎県	0.95	
43	福島県	0.99	
44	長崎県	1.00	
45	青森県	1.04	
46	鳥取県	1.05	
47	沖縄県	1.09	

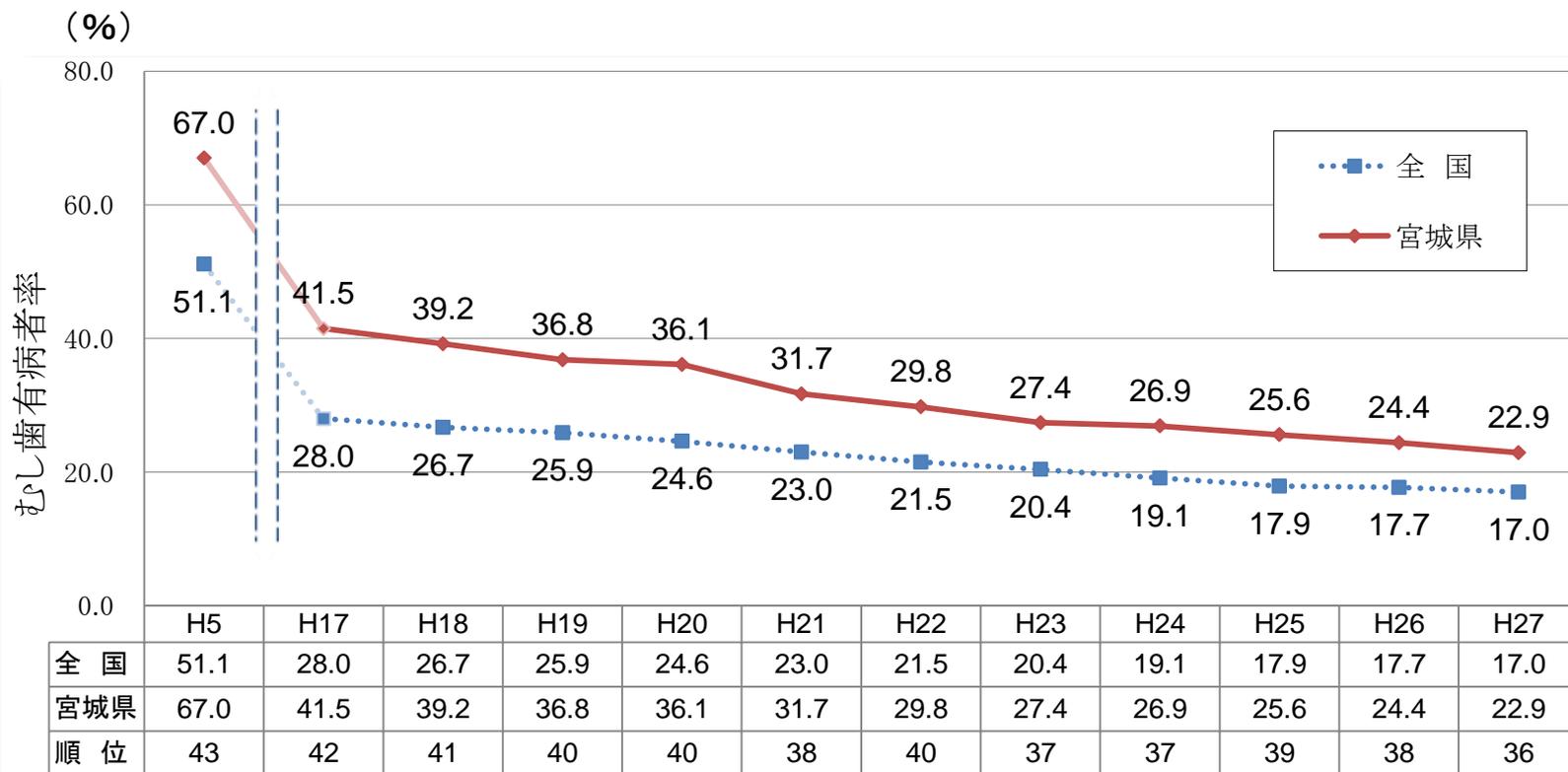
◆3歳児の一人平均むし歯本数の状況  
(宮城県市町村別／平成27年度)



※ 平成27年度「地域・健康増進事業報告」結果  
【厚生労働省】

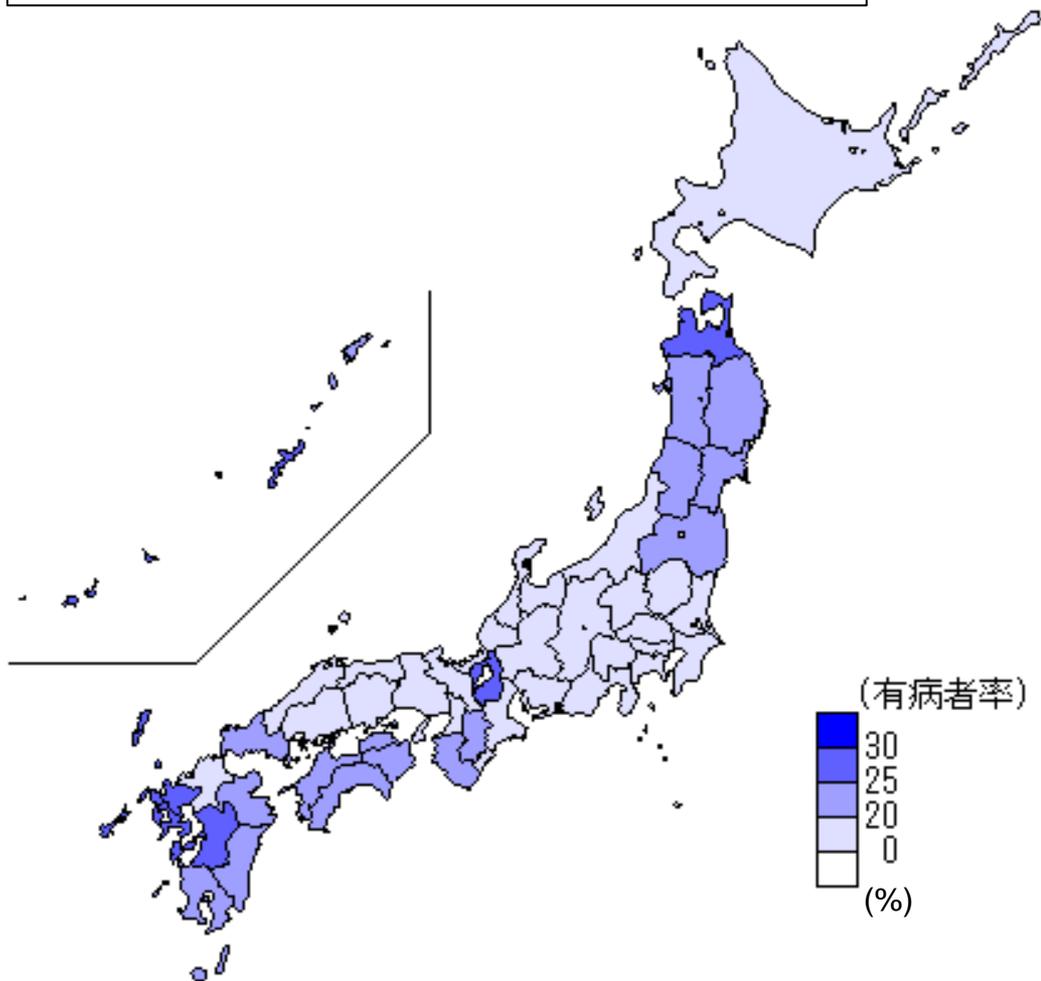
医療圏	市町村名	本数	平均	
仙南	白石市	1.06		
	蔵王町	1.59		
	七ヶ宿町	0.50		
	角田市	1.08		
	丸森町	0.83		
	大河原町	1.04		
	村田町	0.64		
	柴田町	1.18		
	川崎町	1.13		
	仙台	仙台市		0.71
塩竈市		0.79		
多賀城市		0.89		
富谷市		0.42		
松島町		0.72		
七ヶ浜町		0.78		
利府町		0.62		
名取市		0.69	仙台市除く 0.92	
岩沼市		0.25		
亘理町		1.09	仙台市 0.71	
山元町		2.23		
大和町		0.71		
大郷町		0.53		
大衡村		1.03		
大崎・ 栗原・ 登米市		大崎市	0.94	
	色麻町	1.00		
	加美町	1.25		
	涌谷町	1.36		
	美里町	1.09		
	栗原市	1.00		
	登米市	0.95		
石巻・ 気仙沼	石巻市	1.20		
	東松島市	0.88		
	女川町	1.24		
	気仙沼市	1.62		
	南三陸町	1.07		

### ◆3歳児のむし歯有病者率の状況(宮城県)



※ ~H25「歯科健康診査(3歳児健康診査)」結果 【厚生労働省】  
 H26~「地域・健康増進事業報告」結果 【厚生労働省】

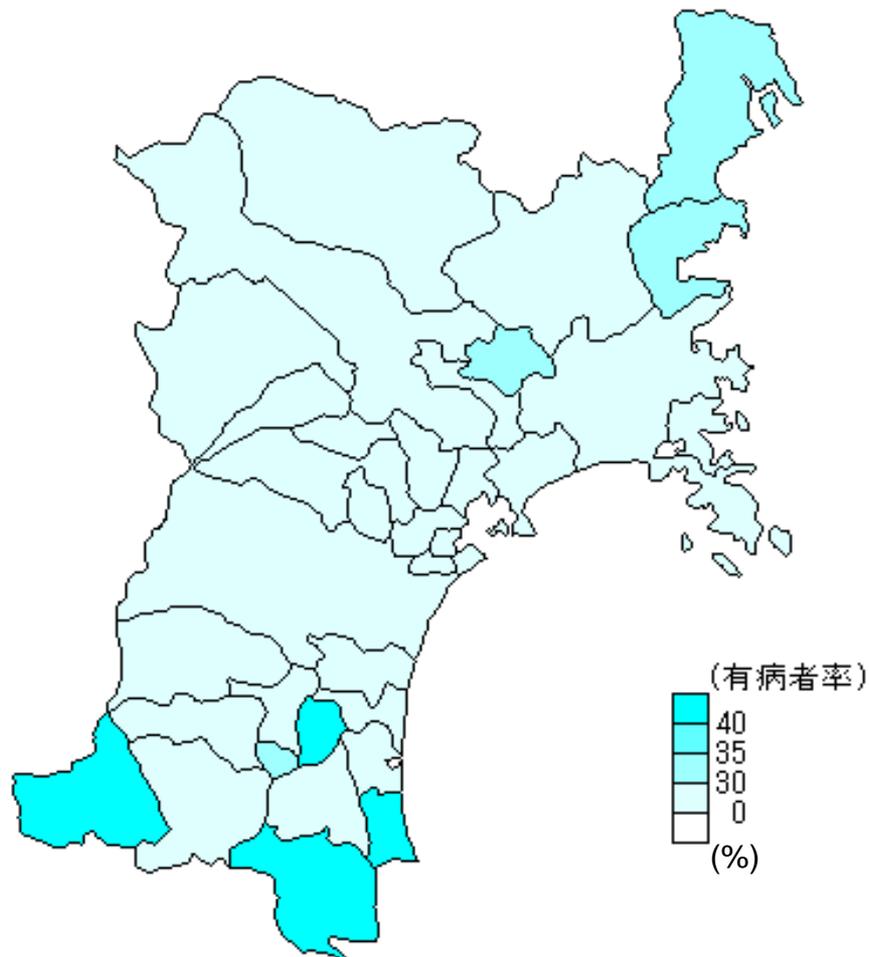
◆3歳児むし歯有病者率の状況  
(都道府県別／平成27年度)



※ 平成27年度「地域・健康増進事業報告」結果  
【厚生労働省】

順位	都道府県	有病率	平均
1	愛知県	11.2%	全国 17.0%
2	静岡県	11.5%	
3	東京都	11.5%	
4	新潟県	12.5%	
5	岐阜県	12.7%	
6	神奈川県	12.7%	
7	鳥取県	13.8%	
8	長野県	14.5%	
9	兵庫県	15.0%	
10	埼玉県	15.4%	
⋮	⋮	⋮	
30	山口県	21.0%	
31	高知県	21.6%	
32	和歌山県	21.7%	
33	鹿児島県	22.0%	
34	岩手県	22.4%	
35	香川県	22.8%	
36	宮城県	22.9%	
37	大分県	23.8%	
38	秋田県	24.2%	
39	宮崎県	24.4%	
40	徳島県	24.4%	
41	福島県	24.7%	
42	熊本県	25.1%	
43	滋賀県	25.1%	
44	佐賀県	26.1%	
45	長崎県	27.7%	
46	青森県	28.8%	
47	沖縄県	29.8%	

◆3歳児むし歯有病者率の状況  
(宮城県市町村別／平成27年度)



※ 平成27年度「地域・健康増進事業報告」結果  
【厚生労働省】

医療圏	市町村名	有病率	平均
仙南	白石市	26.8%	22.9%
	蔵王町	29.3%	
	七ヶ宿町	50.0%	
	角田市	26.3%	
	丸森町	82.5%	
	大河原町	31.7%	
	村田町	23.5%	
	柴田町	30.1%	
仙台	川崎町	25.0%	25.6%
	仙台市	20.0%	
	塩竈市	21.7%	
	多賀城市	24.5%	
	富谷市	15.7%	
	松島町	27.9%	
	七ヶ浜町	20.6%	
	利府町	21.3%	
	名取市	21.0%	
	岩沼市	23.6%	
	亘理町	26.2%	
	山元町	49.1%	
	大和町	21.2%	
大郷町	21.9%		
大衡村	15.5%	20.0%	
大崎・栗原・登米市	大崎市	27.9%	27.6%
	色麻町	29.8%	
	加美町	25.6%	
	涌谷町	34.9%	
	美里町	27.6%	
	栗原市	22.9%	
石巻・気仙沼	登米市	24.5%	26.0%
	石巻市	28.2%	
	東松島市	26.0%	
	女川町	20.0%	
	気仙沼市	32.8%	
南三陸町	30.0%	30.0%	

## 現状と課題等

- ◆ 妊産婦歯科健診は平成28年度は19市町で実施している。妊産婦への歯科保健指導は21市町村で実施している。
- ◆ 県内すべての市町村で1歳6か月児健診と3歳児健診の間の時期に歯科健診又は歯科保健指導を実施している。
- ◆ 県保育協議会の会員371施設では、年1回以上の歯科健康診査を実施している。
- ◆ 歯科保健の一環としてのフッ化物応用は、平成28年度はフッ化物歯面塗布が15市町、フッ化物洗口は12市町で行われている。県では平成25年度からフッ化物洗口に取り組む市町村へ重点的な支援を実施した結果、平成28年度までに9市町がモデル事業を活用した。平成29年度は新たに1市が導入している。
- ◆ 平成27年度「幼児に関する歯科保健行動調査」では、3歳児に対する一日あたりの間食の回数が3回以上である割合が約30%を占めており、目標値(15%以下)に至らなかった。

- ◆ 平成27年度「幼児に関する歯科保健行動調査」によると、むし歯の有病率が最も高い内陸部南部や一人あたりむし歯本数が最も多い沿岸部北部は、歯みがき剤の使用やシーラントの実施、定期受診をしている人の割合が低いことに加え、3回以上間食している人の割合が高く、地域間格差が認められる。この格差解消に向けた歯科保健行動の啓発等の取組が必要である。
- ◆ 平成27年度3歳児歯科健康診査結果によると、本県の3歳児の一人平均むし歯本数及び有病者率は年々減少している。3歳児の一人平均むし歯本数については、平成25年度において目標値の1本以下を達成し、平成27年度においては0.82本まで低下した。しかし、一人平均むし歯本数(0.82本, 36位)及び有病者率(22.9%, 36位)とも全国では下位となっており、また県内での地域間格差も見られる。
- ◆ 宮城県食育推進プランにおいても、望ましい食生活リズムや生活習慣の基礎を身につけることが必要とされているため、啓発等に当たっては食育の視点を取り入れながら歯や口腔機能の発達状態に応じた支援を促進していく必要がある。
- ◆ むし歯予防のため、引き続きフッ化物応用を継続実施できるよう、県歯科医師会や市町村とも連携の上で今後も継続実施していくことが必要である。

## 平成28・29年度の主な取組

取 組	実施主体	H28	H29
母子健康手帳の交付	市町村	○	○
妊婦歯科健康診査	市町村[一部]	○	○
母子歯科保健指導	市町村	○	○
1歳6ヶ月児／3歳児歯科健康診査	市町村	○	○
2歳児／2歳6ヶ月児等歯科健康診査	市町村[一部]	○	○
保育所の定期健康診断における歯科健診	保育所設置主体	○	○
乳幼児の疾病予防・健康増進に関する疫学研究・基礎的・臨床的研究	東北大学	○	○
美里町子育て支援センター歯みがき教室事業	東北大学	○	○
フッ化物洗口を利用したパブリックケアの推進	県歯科医師会	○	○
歯つらつファミリーコンクール	県歯科医師会・ 県(健康推進課)	○	○
宮城県歯科保健大会	県歯科医師会	○	○

取 組	実施主体	H28	H29
イベントでの啓発事業	県歯科医師会	○	○
歯と口腔の衛生週間事業	県歯科衛生士会	○	○
宮城県国公立幼稚園・こども園協議会総会・研修会	県国公立幼稚園・ こども園協議会	○	○
啓蒙活動・歯の健康診査・フッ化物洗口導入支援・食育活動	県保育協議会	○	○
いい日・いい汗栄養まつり	県栄養士会	○	○
乳幼児へのフッ化物の集団塗布・フッ化物洗口	市町村[一部]・ 保育協議会	○	○
フッ化物洗口導入モデル事業	県(健康推進課)	○	○
妊娠期における歯科保健対策事業	県(健康推進課) 【県歯科医師会】	○	○
乳幼児歯科保健関係者研修会	県(健康推進課)	○	○

※【 】受託団体

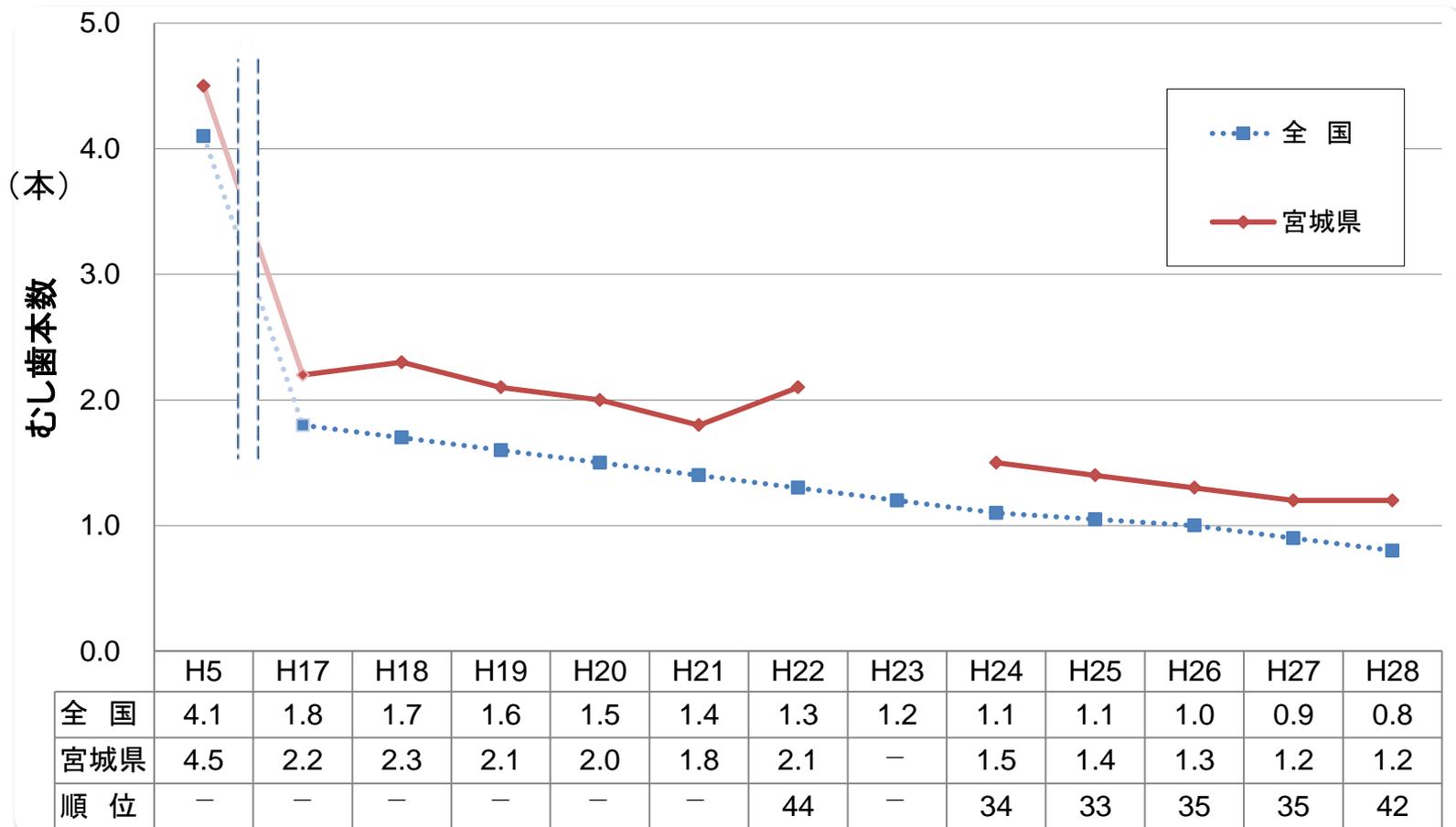
## ② 学童期・思春期

## 達成指標

達成指標	ベース ライン値	現状値	目標値
12歳児の一人平均むし歯本数	1.5本 (H24)	1.2本 (H28)	1本以下 (H28)
12歳児におけるむし歯のない人の割合	47.8% (H24)	57.4% (H28)	全国平均を 上回る値 (H28: 64.9%)
12歳児における歯肉に異常のある人の割合	6.1% (H24)	8.3% (H28)	全国平均を 下回る値 (H28: 4.1%)
過去1年間に歯磨きの個別指導を受けた人の割合	24.8% (H24)	44.3% (H28)	30%以上
フッ化物配合歯磨き剤の使用割合	53.1% (H24)	96.3% (H28)	90%以上

# 歯科疾患の現状

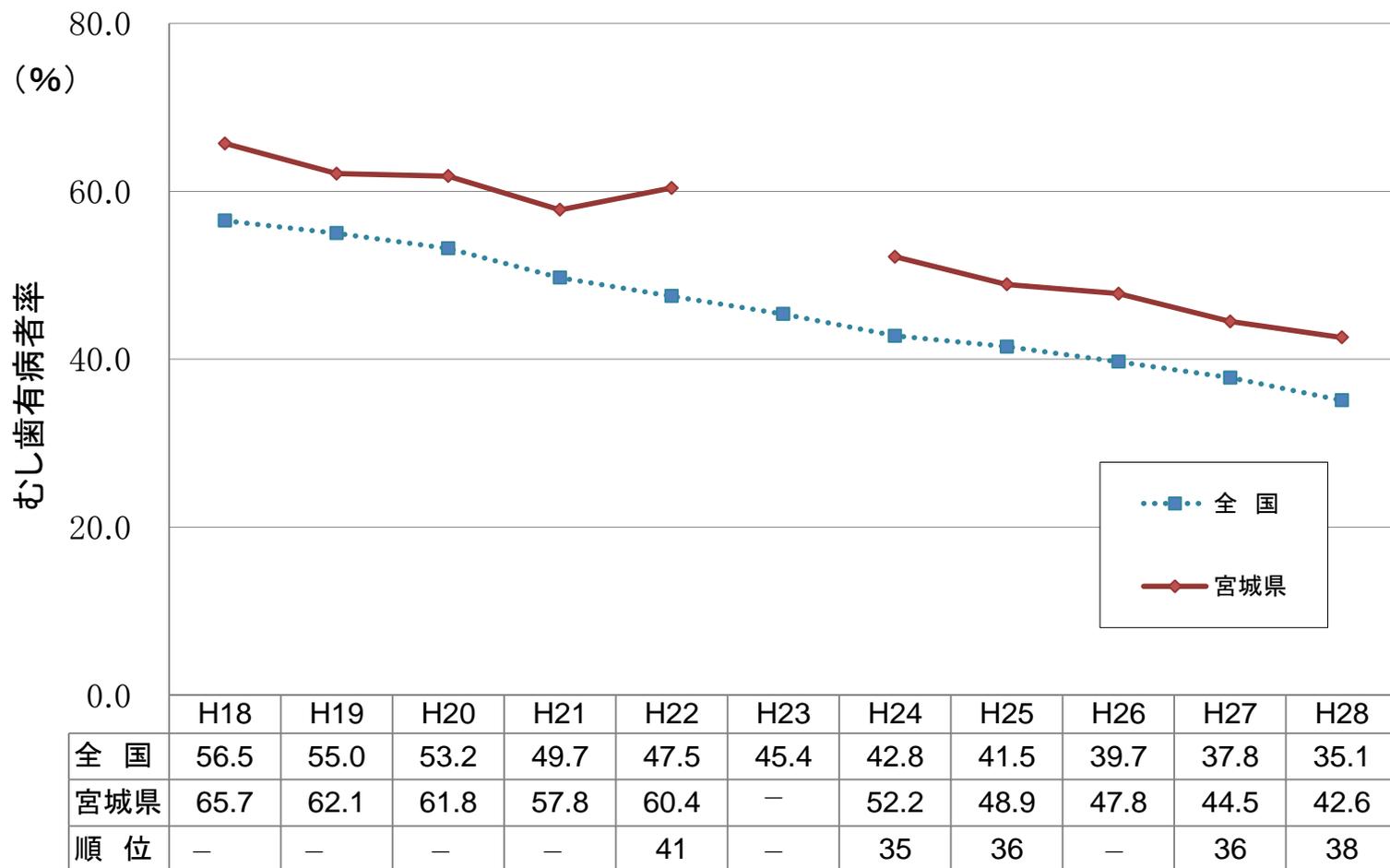
## ◆12歳児の一人平均むし歯本数の状況(宮城県)



・H23は震災の影響で調査なし

※ 平成28年度「学校保健統計調査」結果 【文部科学省】

## ◆12歳児のむし歯有病者率の状況(宮城県)



H23は震災の影響で調査なし

※ 平成28年度「学校保健統計調査」結果 【文部科学省】

## ◆年齢別むし歯有病者率の状況(宮城県)

(単位:%)

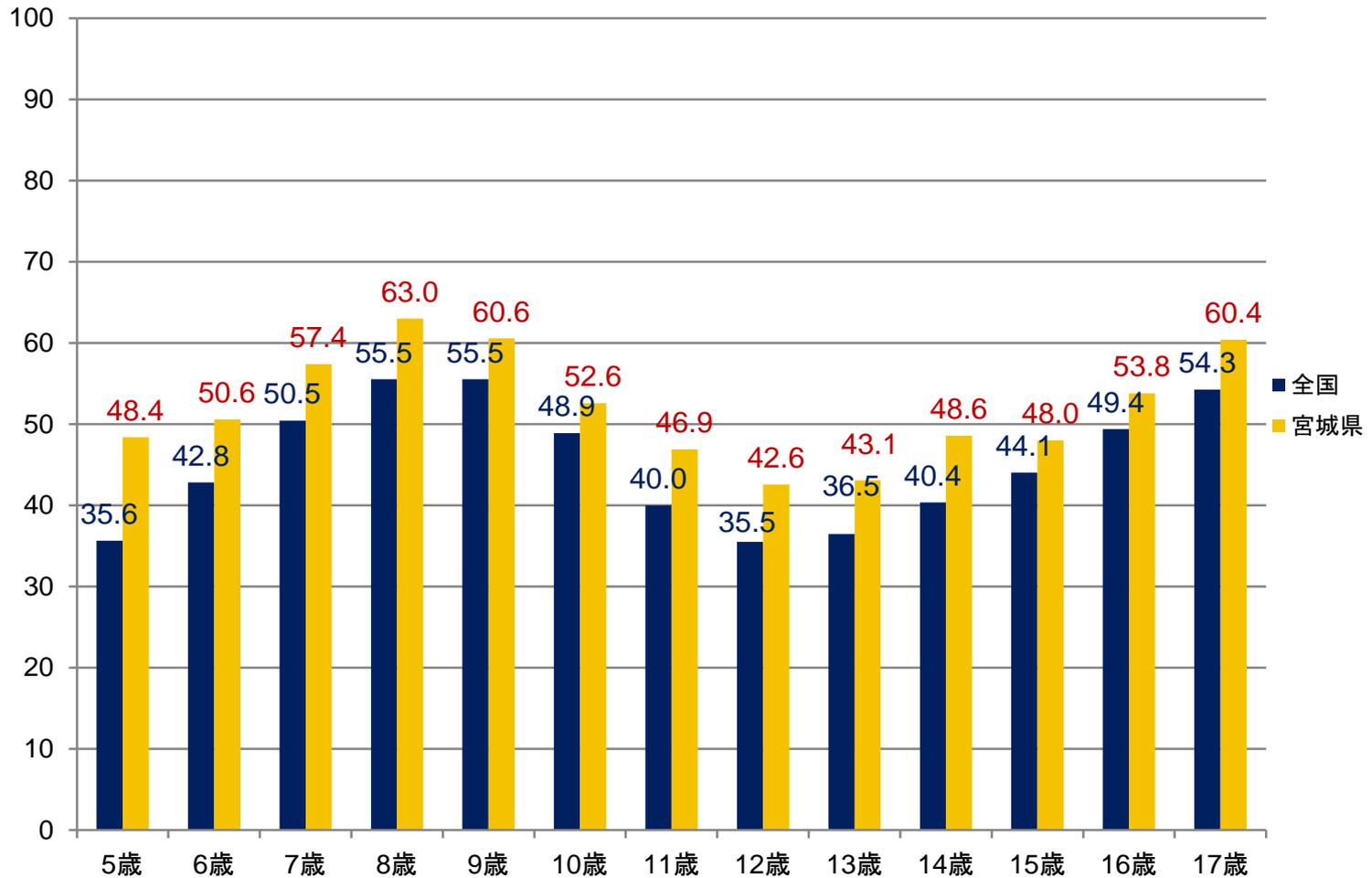
	年度	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
宮城県 (仙台市を含む)	H21	61.5	64.8	69.8	75.5	74.0	68.5	57.4	57.8	61.4	68.1	71.2	74.9	77.5
	H22	57.6	57.0	62.6	69.9	71.7	62.6	56.2	60.4	61.8	66.6	65.0	69.7	73.4
	H23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H24	58.6	56.7	64.4	67.5	68.9	60.9	52.1	52.2	55.0	58.9	63.8	68.3	72.2
	H25	56.5	54.1	60.8	66.1	64.1	57.7	50.6	48.9	49.7	55.0	57.1	64.0	70.1
	H26	50.6	53.6	62.3	63.0	65.0	55.8	47.1	47.8	50.6	53.8	59.8	66.2	57.6
	H27	48.6	53.8	58.8	65.8	64.3	58.8	47.6	44.5	50.3	52.2	55.0	61.0	67.3
	H28	48.4	50.6	57.4	63.0	60.6	52.6	46.9	42.6	43.1	48.6	48.0	53.8	60.4
全国平均	H28	35.6	42.8	50.5	55.5	55.5	48.9	40.0	35.5	36.5	40.4	44.1	49.4	54.3

H23は震災の影響で調査なし

※ 平成28年度「学校保健統計調査」結果 【文部科学省】

(%)

## 年齢別むし歯有病者率(宮城県と全国平均比較)…平成28年度



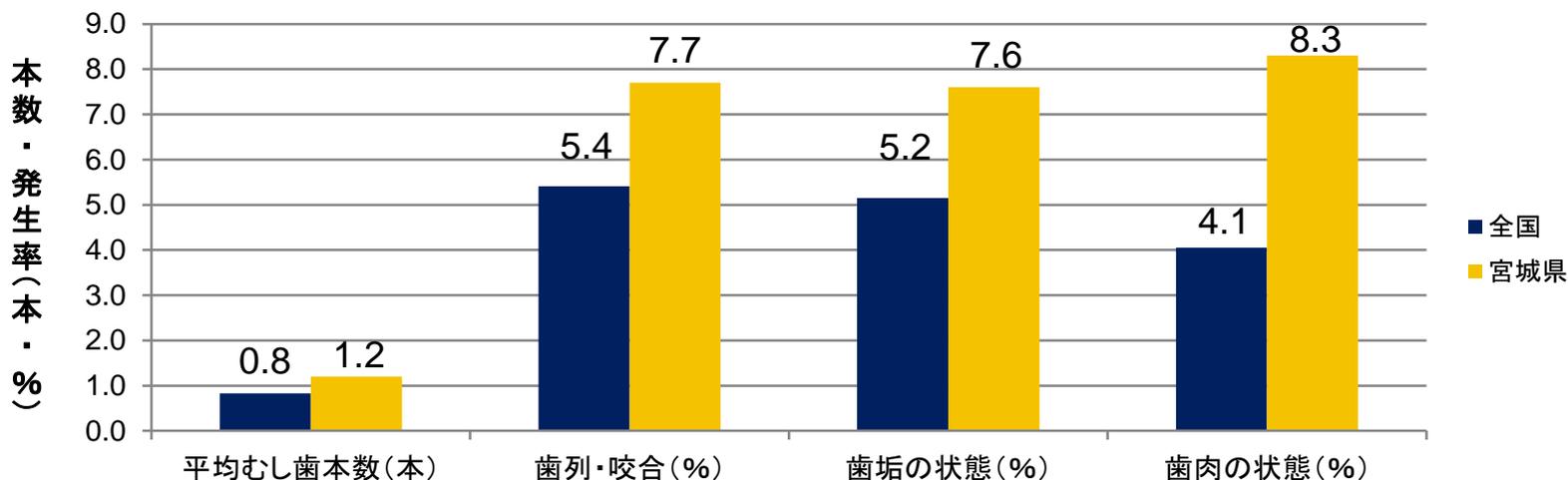
※ 平成28年度「学校保健統計調査」結果 【文部科学省】

## ◆12歳児の口腔疾患・異常の状況…平成28年度(宮城県)

	年度	永久歯の 平均むし歯 本数	歯列・咬合(%)	歯垢の状態 (%)	歯肉の状態 (%)
宮城県 (仙台市を 含む)	H21	1.8	12.0	7.3	7.0
	H22	2.1	11.9	6.5	9.0
	H23	-	-	-	-
	H24	1.5	11.5	5.1	6.1
	H25	1.4	10.4	5.5	5.7
	H26	1.3	8.2	6.5	6.0
	H27	1.2	6.3	6.5	6.6
	H28	1.2	7.7	7.6	8.3
全国平均	H28	0.8	5.4	5.2	4.1

※ 「学校保健統計調査」結果 【文部科学省】

### 12歳児の口腔疾患・異常(全国平均と宮城県の比較)…平成28年度



※ 平成28年度「学校保健統計調査」結果 【文部科学省】



## 現状と課題等

- ◆ 県歯科医師会では、学校歯科保健関係者の資質向上を図るため、学校歯科医を対象とした体系的な研修を実施している。
- ◆ 教職員の歯科・口腔保健に関する知識・意識の向上を図るため、県教育委員会による研修のほか、東北大学による教員免許状更新研修における口腔保健に関する研修プログラムの提供などが実施されている。
- ◆ 児童・生徒に対しては、東北大学が出前講座を実施するとともに、県歯科医師会が歯・口の健康に関するポスターコンクールを開催するなど、様々な手法による普及啓発活動が継続して行われた。
- ◆ 県が県歯科医師会に委託し、10年以上にわたり小・中学生体験歯みがき教室を実施するとともに、平成28年度は、前年度作成した教員が学校現場で児童生徒に歯科口腔保健と食育に関する知識を教示するための教育ツールを活用した教員向け講習会を県内6圏域で開催した。

- ◆ 平成28年度において5歳から17歳の年齢別むし歯有病者率、12歳児の口腔疾患・異常の割合については、歯列・咬合7.7%、歯垢7.6%、歯肉8.3%と現在も悪い状態にある。特に、歯肉異常がある12歳児の割合は全国値4.1%に対し本県8.3%と大きく開きがあり、ブラッシング指導や歯磨きの習慣化等の取組を継続しつつ、口腔全体のケアについても啓発していく必要がある。また、習慣化が定着しない背景や現状を把握し、対策に生かしていくことも必要である。
- ◆ 本県においては歯科保健上の問題だけでなく、学童期からの肥満傾向もみられていることから、家庭や教育分野、県歯科医師会等とも連携の上で、食育の観点を取り入れながら正しい食生活を身につけられるよう働きかけることが歯科保健上においても必要である。
- ◆ 平成28年度の12歳児の一人平均むし歯本数(1.2本)及び有病者率(42.6%)は平成21年度の当初値に比して大きく低下したが、一貫して全国平均を上回り、全国値との差が縮小していない(全国値0.8本, 35.1%)。乳幼児期における地域間格差が学童期にも継承されている実情があり、全県的な取組と地域における取組の双方が必要である。教育関係者や家庭、地域、県歯科医師会等と問題点を共有しながら普及啓発をさらに強化していく必要がある。

## 平成28・29年度の主な取組

取 組	実施主体	H28	H29
就学時健康診断における歯科健診	市町村教育委員会	○	○
幼稚園・学校での定期健康診断における歯科健診	市町村教育委員会	○	○
健康な口腔とよい歯の幼稚園・学校表彰	県歯科医師会	○	○
歯・口の健康啓発標語・図面・ポスターコンクール	県歯科医師会	○	○
学校歯科健診時における歯科保健指導	県歯科衛生士会	○	○
幼稚園・学校でのフッ化物洗口事業	幼稚園[一部], 学校	○	○
文部科学省学校教員免許状更新研修(選択型)事業	東北大学	○	○
復興アクション支援事業「被災地における地域口腔保健推進システムの運用と口腔健康の動態の解析」	東北大学	○	○

取 組	実施主体	H28	H29
サイエンス・スクール事業	東北大学	○	○
学童期の疾病予防・健康増進に関する疫学研究・基礎的・臨床的研究【再掲】	東北大学	○	○
学校保健研修事業	県教育委員会	○	○
児童生徒定期健康診断事業	県歯科医師会, 東北大学, 県教育委員会	○	○
学校・地域保健連携推進事業	県教育委員会	○	○
生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業	県教育委員会	○	○
教育教材活用講習会 (H29: 歯と口腔の健康づくり研修会)	県(健康推進課) 【県歯科医師会】	○	○
宮城県児童生徒の健康実態調査	県教育委員会	○	○

※【 】受託団体

# ③ 青年期・壮年期

## 達成指標

### (1) 青年期（概ね19歳から39歳）

達成指標	ベースライン値	現状値	目標値
かかりつけ歯科医を持つ割合	46.8% (H22)	49.1% (H28)	70%以上
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	23.3% (H24)	25.5% (H28)	30%以上
歯間清掃用器具（デンタルフロスや歯間ブラシ等）を使用する人の割合	45.5% (H24)	38.2% (H28)	60%以上
喫煙によって歯周病にかかりやすくなることを知っている人の割合	58.7% (H22)	59.9% (H28)	100%

## (2) 壮年期（概ね40歳から64歳）

達成指標	ベースライン値	現状値	目標値
かかりつけ歯科医を持つ割合	55.9% (H22)	56.6% (H28)	70%以上
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	31.1% (H24)	34.1% (H28)	45%以上
歯間清掃用器具(デンタルフロスや歯間ブラシ等)を使用する人の割合	57.7% (H24)	53.8% (H28)	70%以上
進行した歯周病の人(4mm以上の歯周ポケットを有する人)の割合	45.0% (H24)	63.7% (H28)	40%以下
60歳で24本以上歯を保持する割合	38.6% ※ (H22)	53.3% (H28)	50%以上
喫煙によって歯周病にかかりやすくなることを知っている人の割合	42.9% (H22)	50.2% (H28)	100%

※ 現状値は「60歳で25本以上歯を保持する割合」である

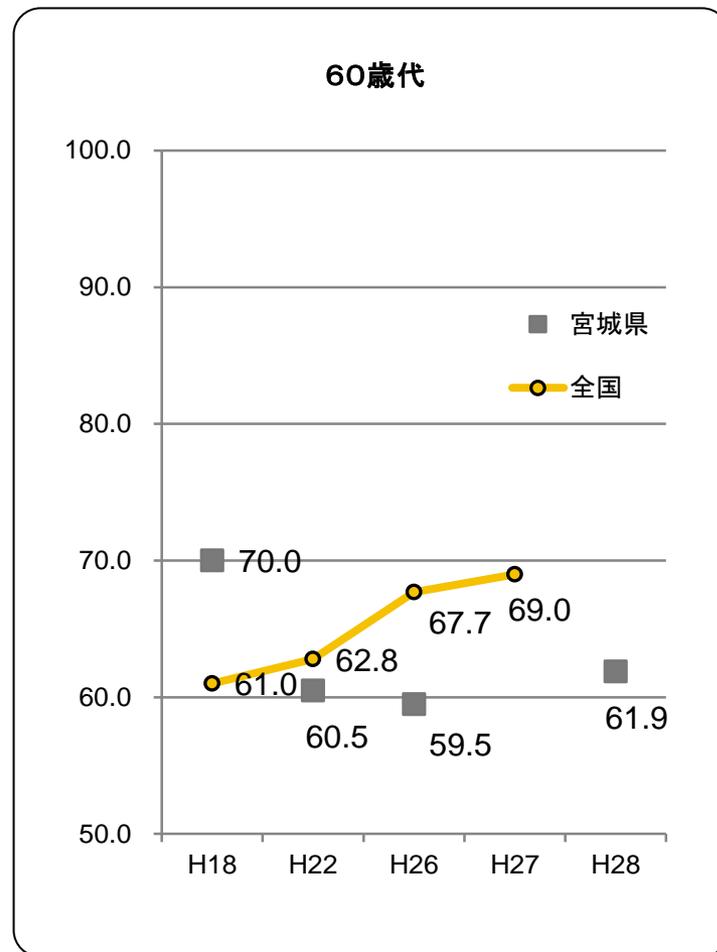
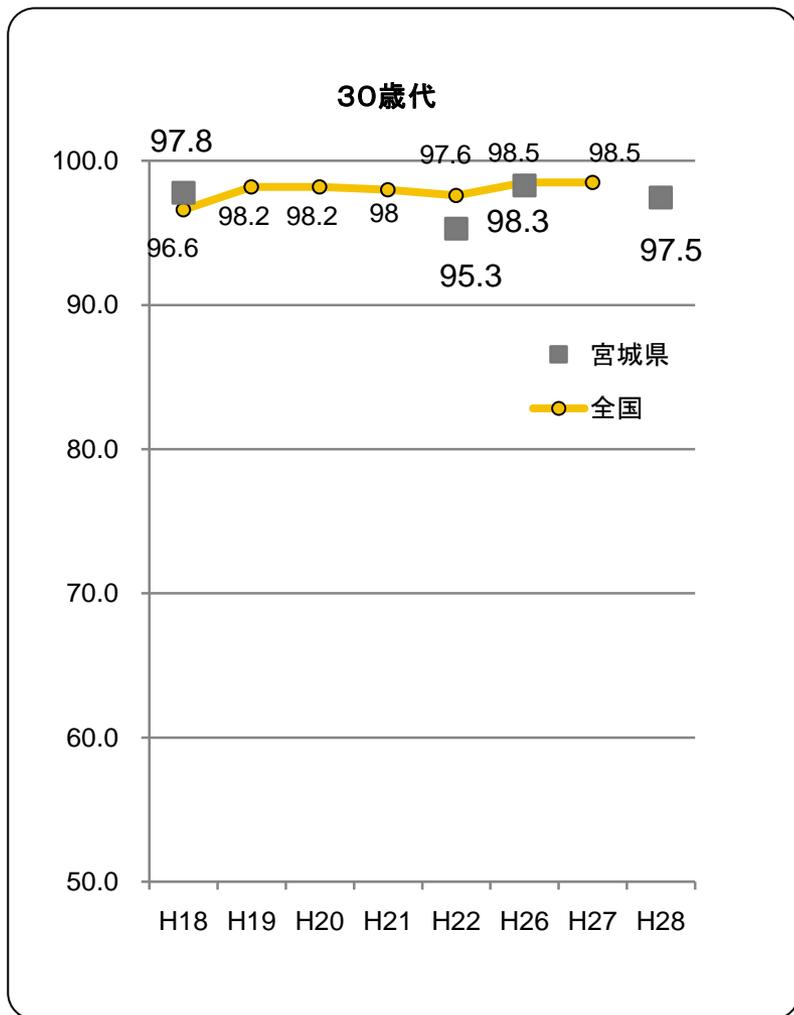
# 歯科疾患の現状

## ◆成人の歯の本数(20歯以上の割合)(宮城県)

	年度	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
全国	H18	99.4%	96.6%	91.4%	77.2%	61.0%	32.5%
	H19	99.7%	98.2%	93.0%	81.6%	66.3%	35.8%
	H20	99.5%	98.2%	91.3%	77.5%	63.0%	35.4%
	H21	99.2%	98.0%	93.8%	80.9%	64.1%	29.6%
	H22	99.4%	97.6%	94.1%	80.2%	62.8%	33.4%
	H23	99.5%	98.5%	95.0%	84.0%	64.2%	35.6%
	H26	100.0%	98.5%	96.4%	85.9%	67.7%	37.1%
	H27	100.0%	98.5%	95.9%	85.1%	69.0%	40.8%
宮城	H18	98.1%	97.8%	90.5%	75.9%	70.0%	32.3%
	H22	98.9%	95.3%	90.1%	74.7%	60.5%	35.0%
	H26	100.0%	98.3%	93.9%	83.1%	59.5%	38.9%
	H28	99.0%	97.5%	93.6%	81.8%	61.9%	40.0%

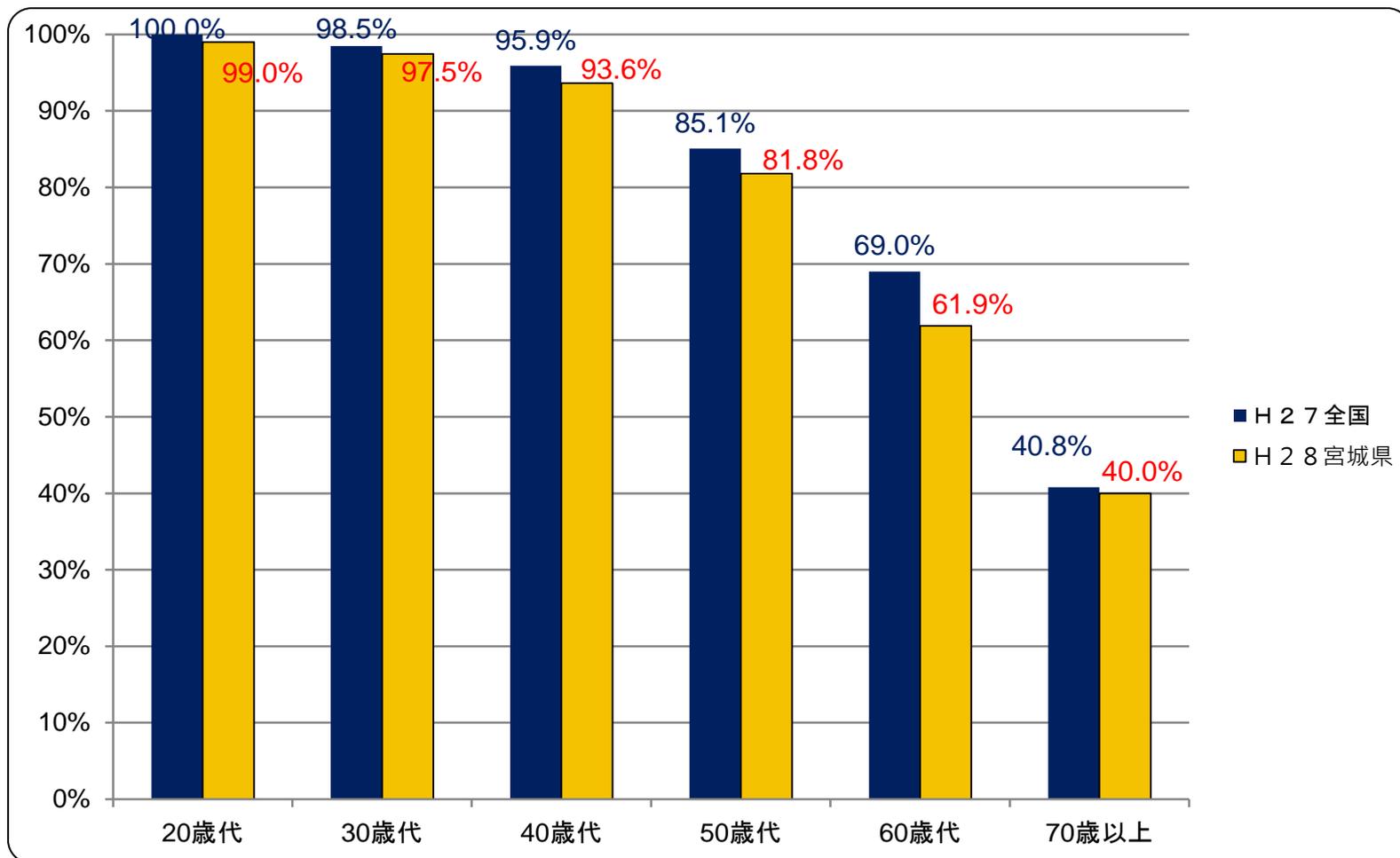
※ 全国データ:「国民健康・栄養調査」結果【厚生労働省】  
 本県データ:「県民健康・栄養調査」結果(H28は暫定値)

◆20歯以上の割合の年次推移（全国：H18-H23,H26,H27 宮城：H18,H22,H26,H28のみ）



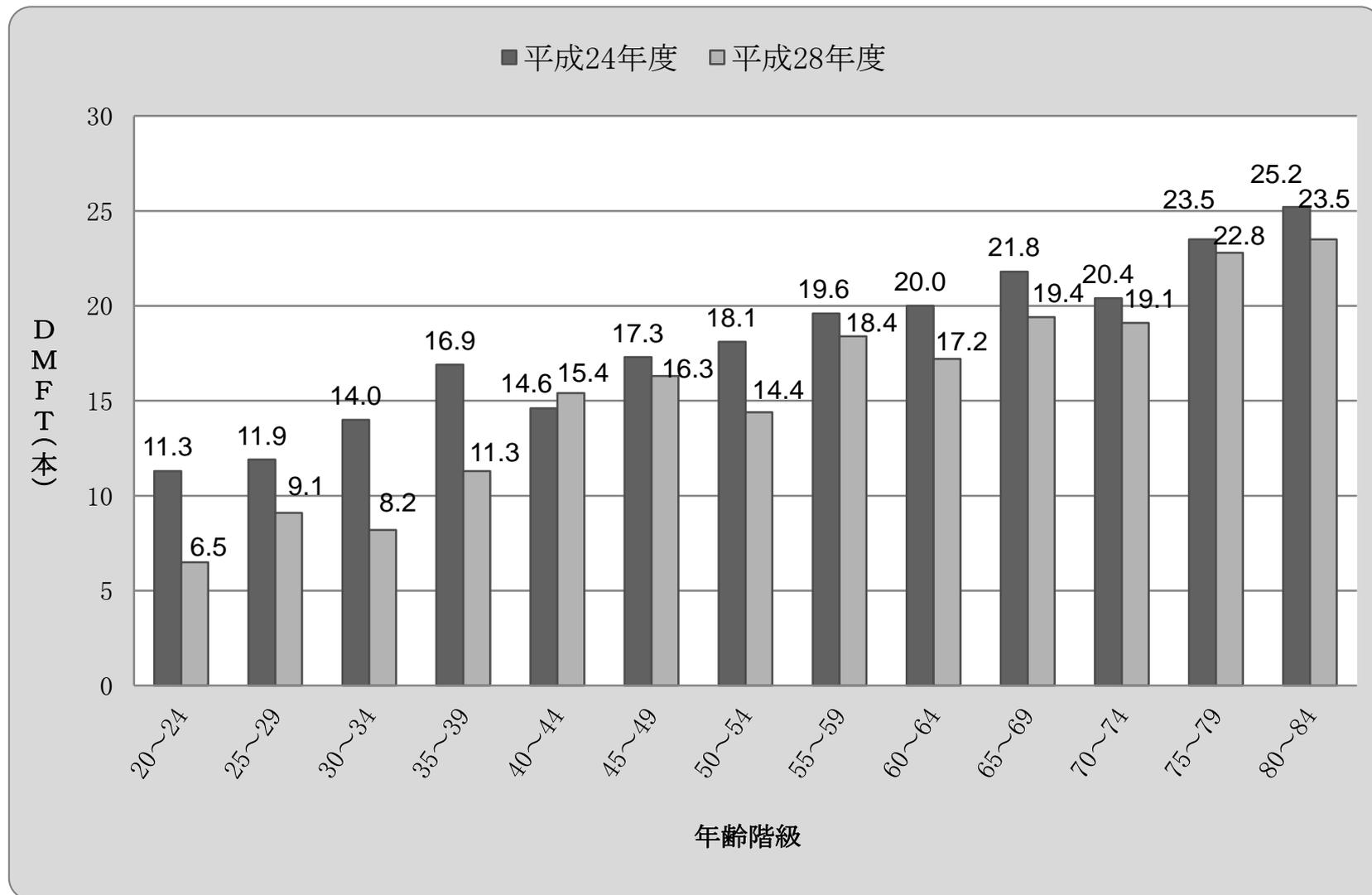
※ 全国データ：平成27年度「国民健康・栄養調査」結果【厚生労働省】  
 本県データ：平成28年度「県民健康・栄養調査」結果（暫定値）

## ◆20歯以上の割合 年代別（宮城県と全国平均比較）



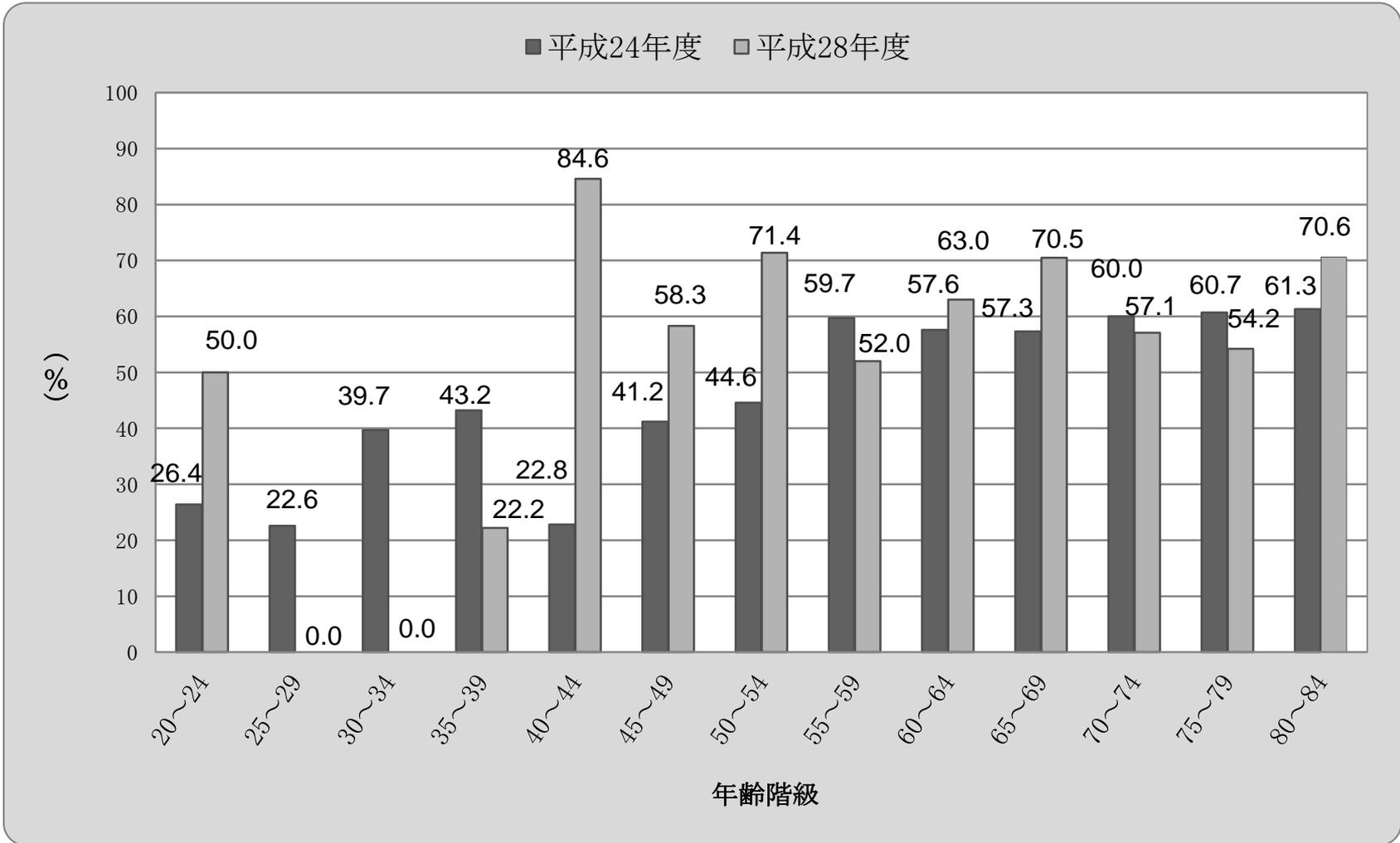
※ 全国データ:平成27年度「国民健康・栄養調査」結果【厚生労働省】  
本県データ:平成28年度「県民健康・栄養調査」結果(暫定値)

## ◆本県における年齢階級ごとの一人平均むし菌経験歯数(DMFT)



※本県データ:平成24年度・平成28年度 「宮城県歯と口腔の健康実態調査」結果

## ◆本県における年齢階級ごとと歯周疾患を有する者の割合



※本県データ：平成24年度・平成28年度 「宮城県歯と口腔の健康実態調査」結果

## 現状と課題等

- ◆ 市町村における歯周疾患健診は、平成28年度において26市町が実施している。
- ◆ 20本以上歯を持つ人の割合の年次推移を見ると、本県の数値は、30代では全国と同等(本県:平成28年度97.5%, 全国:平成27年度98.5%)であるが、60代では大きく全国値を下回る(本県:平成28年度61.9%, 全国:平成27年度69.0%)。また、60代の全国平均の経年変化にみられるような改善傾向が本県においては見られない(本県:平成22年度60.5%→平成28年度61.9%, 全国:平成22年度62.8%→平成28年度69.0%)。
- ◆ 平成28年度「宮城県歯と口腔の健康実態調査」によると、青年期・壮年期の歯間清掃用具を使用する者の割合は平成24年度調査よりも減少した(青年期45.5%→38.2%, 壮年期57.7%→53.8%)。また、壮年期の進行した歯周病の人の割合は増加している(45.0%→63.7%)。

- ◆ 職域に向けた歯科保健対策として、研修の場を活用した普及啓発等も実施されているが、平成27年度「職場における歯と口腔の健康づくりに関する取組状況調査」では前回調査(平成24年度)と比較して、職場において歯科健診を実施している事業所の数にほとんど変化がなかった(119事業所中13事業所)。歯科保健対策の効果的实施及び定着のためにも、県歯科医師会や労働局、保険者等との連携により、職場における対策を進めていく必要がある。
- ◆ 平成28年度に実施した「宮城県歯と口腔の健康実態調査」においては、前回調査(平成24年度)と比較して40代から50代において歯周疾患を有する人の割合の増加、喫煙者割合の増加が確認されている。定期的歯科受診による歯周疾患の早期発見に加え、喫煙による歯周疾患への影響について普及啓発の強化が必要である。

## 平成28・29年度の主な取組

取 組	実施主体	H28	H29
健康手帳の交付	市町村	○	— ※
歯周疾患検診等の実施	市町村	○	○
歯の健康相談, 健康教育の実施	市町村	○	○
医科との連携事業の構築・推進	県歯科医師会	○	○
成人健診時における歯科保健指導	県歯科衛生士会	○	○
がんプロフェッショナル養成事業	東北大学	○	○
成人歯科健康診査の支援と新しい口腔疾患と全身疾患の診断技術の開発	東北大学	○	○
歯科医学に基づく基礎的・臨床的研究の推進	東北大学	○	○

※ 健康手帳の交付について, 今後照会予定。

取 組	実施主体	H28	H29
介護予防に関する事業評価・市町村支援事業	県(長寿社会政策課)	○	○
事業所歯科健康診査	事業主・県歯科医師会・健康保険組合	○	○
宮城県歯科医師会と連携した広報事業	全国健康保険協会 宮城支部	○	○
職場健康づくり宣言	全国健康保険協会 宮城支部	○	○
特定健診に歯周病検査を取り入れた オプション健診	全国健康保険協会 宮城支部	○	○
職域に対する普及啓発事業	県(健康推進課)	○	○
被災者特別健診事業	県(健康推進課)	○	○

※【 】受託団体

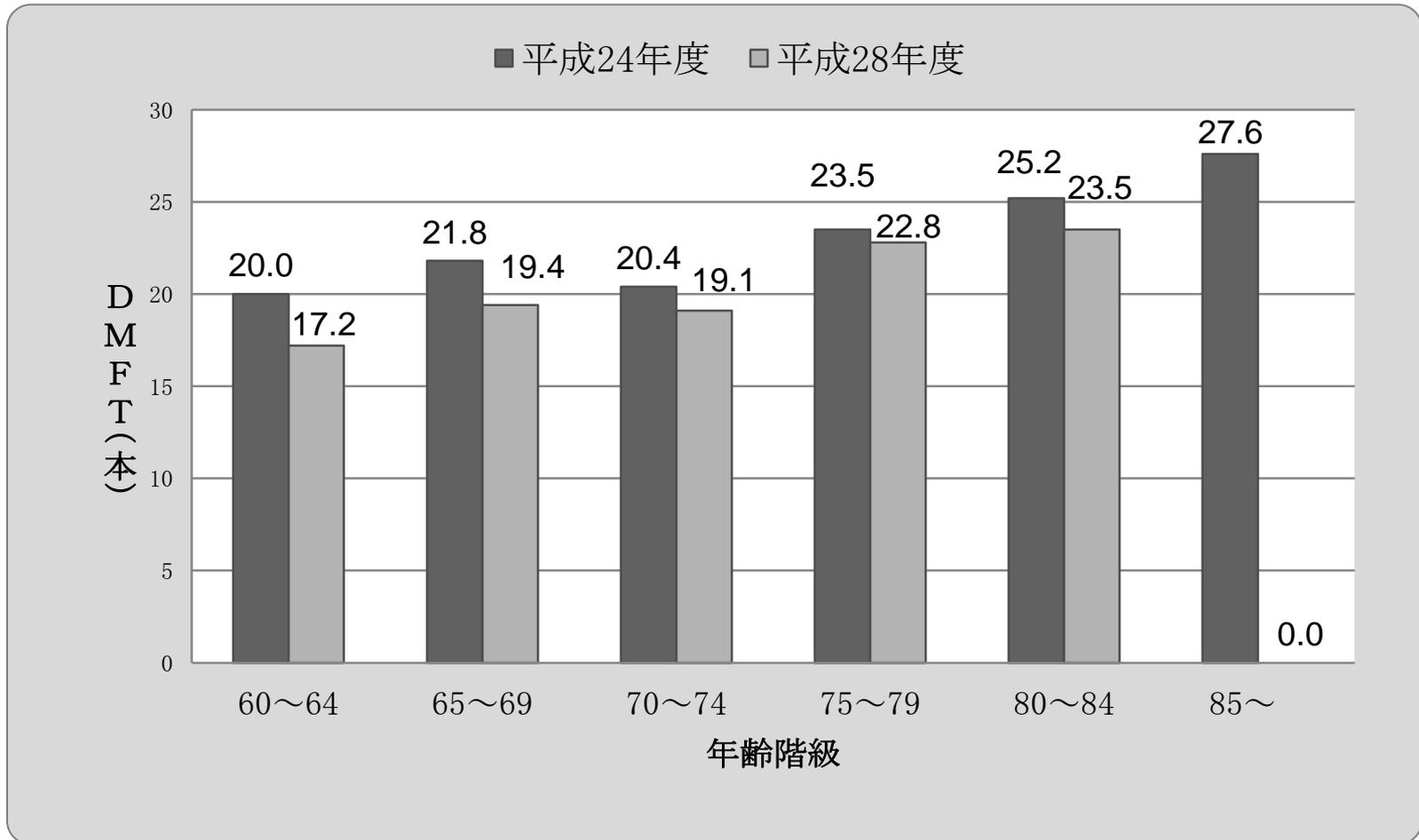
# ④ 高齡期

## 達成指標

達成指標	ベース ライン値	現状値	目標値
80歳で20本以上歯を保持する割合	31.8% (H22)	34.0% (H28)	42%以上
かかりつけ歯科医を持つ割合	66.1% (H22)	69.4% (H28)	70%以上
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	56.8% (H24)	45.0% (H28)	60%以上
進行した歯周病の人(4mm以上の歯周ポケットを有する人)の割合	63.5% (H24)	63.3% (H28)	55%以下
喫煙によって歯周病にかかりやすくなることを知っている人の割合	34.7% (H22)	41.4% (H28)	100%

# 歯科疾患の現状

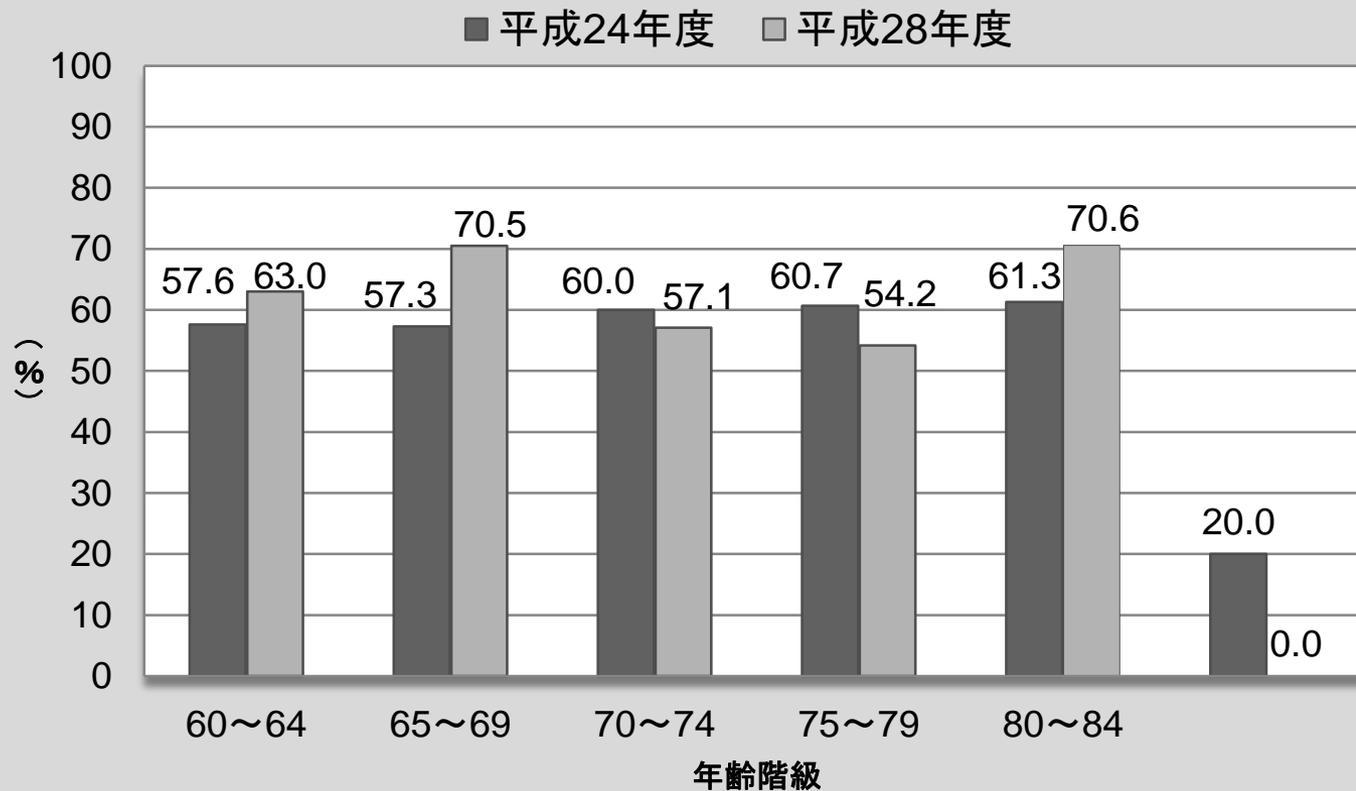
## ◆本県における年齢階級ごとの一人平均むし歯経験歯数(DMFT)



※本県データ:平成24年度・平成28年度「宮城県歯と口腔の健康実態調査」結果

※平成28年度調査は85歳以上の調査対象者がなかったもの。

## ◆本県における年齢階級ごと歯周疾患を有する者の割合



※本県データ:平成24年度・平成28年度 「宮城県歯と口腔の健康実態調査」結果

※平成28年度調査は85歳以上の調査対象者がなかったもの。

## 現状と課題等

- ◆ 県では県歯科医師会へ委託し、在宅歯科・口腔ケアを希望する県民、医療機関、介護サービス事業者等からの相談や、在宅歯科・口腔ケア実施歯科医療機関の紹介等に対応するための専用窓口として、「在宅歯科医療連携室(みやぎ訪問歯科相談室)」(以下「連携室」という。)を設置している。
- ◆ 事業実施状況については、市町村における歯周疾患健診(平成28年度:26市町実施)、関係機関による8020運動の普及啓発のほか委託による施設関係者への人材育成研修など、個別の事情に応じた歯科口腔保健事業が行なわれている。

- ◆ 80歳で現在歯が20本以上の8020達成者の割合は、平成22年度から平成28年度(6カ年)で、31.8%から34.0%とプラス2.2ポイントとなっており、ほぼ横ばいであった。(県民健康・栄養調査)。
- ◆ 定期的に歯石除去・歯面清掃を受けている人の割合は、平成24年度と平成28年度を比較すると56.8%から45.0%とマイナス11.8ポイントとなっており、目標値(60%以上)と比べると大きな開きがある。(宮城県歯と口腔の健康実態調査)
- ◆ 平成27年度「老人福祉施設及び障害福祉サービス事業者における歯と口腔の健康づくりに関する取組状況調査」によると、施設入所者は比較的歯科協力医の診察を受けていた。(往診協力:特別養護老人ホーム75.6%, 認知症高齢者グループホーム58.8%。緊急受診:養護老人ホーム75.0%)在宅の要介護高齢者についても同様の確保ができるよう、県歯科医師会との連携のもとに、啓発及び連携室の利用促進を通じて、受診につながりやすい環境づくりをはかる必要がある。

## 平成28・29年度の主な取組

取 組	実施主体	H28	H29
訪問口腔衛生指導	市町村	○	○
栄養・調理職員研修会	社会福祉施設設置主体	○	○
後期高齢者医療広域連合の歯科健康事業	後期高齢者医療広域連合, 県歯科医師会	○	○
8020よい歯のコンクール	県歯科医師会	○	○
医科との連携事業の構築・推進[再掲]	県歯科医師会	○	○
障害福祉サービス事業所における歯科検診および歯科相談	県歯科衛生士会	○	○
がんプロフェッショナル養成事業[再掲]	東北大学	○	○
成人歯科健康診査の支援と新しい口腔疾患と全身疾患の診断技術の開発[再掲]	東北大学	○	○

取 組	実施主体	H28	H29
歯科医学に基づく臨床研究の推進【再掲】	東北大学	○	○
口腔ケア・栄養管理研修会	県老人福祉施設協議会	○	○
介護予防に関する事業評価・市町村支援事業	県(長寿社会政策課)	○	○
院内口腔管理体制整備事業	県(医療政策課)	○	○
在宅歯科医療連携室整備事業	県(健康推進課) 【県歯科医師会】	○	○
要介護者の口腔ケア支援者研修事業	県(健康推進課) 【県歯科医師会】	○	○

※【 】受託団体

# ⑤ 障がい児・者



## 現状と課題等

- ◆ 石巻市では、障がい児・者への取り組みとして、東北大学や地元歯科医師会との連携のもと、障害福祉サービス事業所を対象とした歯科健診及び歯科相談を平成23年度から実施している。
- ◆ 県では、障がい児・者の歯と口腔の健康状態の改善及び日常の口腔ケアの定着を図るため、県歯科医師会へ委託し、平成26年度から平成28年度まで大崎地域の障がい児・者施設で歯科健診・口腔ケア指導モデル事業を実施し、口腔ケア方法のマニュアル作成に取り組んだ。  
また、県歯科医師会へ委託し、ヘルパーや施設職員等を対象として、障がい児・者の口腔ケアの必要性と方法等に関する研修会を実施した。

- ◆ 平成27年度「老人福祉施設及び障害福祉サービス事業所における歯と口腔の健康づくりに関する取組状況調査」において、障害福祉サービス事業所等職員に、家庭・地域・医療機関等の取組に関する課題・要望を聞いたところ、「障がい者歯科が少ない」「職員不足で仕上げ磨きができない。歯と口腔の健康状態がなかなか改善されない」「(通院の)付き添いのための職員体制がなかなかとれない」といった声が聞かれた。活用しやすい口腔ケア方法や障がい者歯科等の情報提供、相談窓口の整備等を通じて、施設職員等、介助者向けの支援体制を整えていくことが必要である。
- ◆ 障がい児・者の口腔の健康やケアについては、実態把握が十分とはいえない現状であるが、障がい児・者施設でのモデル事業で作成したマニュアルを活用しながら口腔ケア研修事業等を実施する中で、実態把握に努めるとともに効果的な対策を検討していくことが必要である。

## 平成28・29年度の主な取組

取 組	実施主体	H28	H29
石巻市障がい福祉サービス事業所 歯科健診事業	東北大学	○	○
いい日・いい汗栄養まつり【再掲】	県栄養士会	○	○
介護予防に関する事業評価・市町村支 援事業【再掲】	県(長寿社会政策課)	○	○
在宅歯科医療連携室整備事業【再掲】	県(健康推進課) 【県歯科医師会】	○	○
障がい児・者の口腔ケア支援者研修事 業	県(健康推進課) 【県歯科医師会】	○	○
障がい児・者施設歯科健診・口腔ケア指 導モデル事業	県(健康推進課) 【県歯科医師会】	○	—
障がい児親子歯みがき教室 【委託事業】	県(健康推進課) 【県歯科衛生士会】	○	○

※【 】受託団体

